

## IV 乾乳牛を乳房炎から守る

### 1 乾乳期は乳房炎の感染リスクが高まります

図1は、泌乳期と乾乳期の乳房炎新規感染の発生率を表したものです。

乾乳直後と分娩直前は、乳頭口が開きやすい時期であり、乳房炎に感染しやすくなります。そのため、牛体を清潔に管理することが乳房炎防除には大切です。

育成牛も、小さい頃から汚れたペンやドロドロのパドックで飼育されると、未経産牛乳房炎にかかるリスクが高まります。未経産牛乳房炎は治療しても、分娩時に再発または無乳症を示すことがあり、経済的損失は大きくなります。

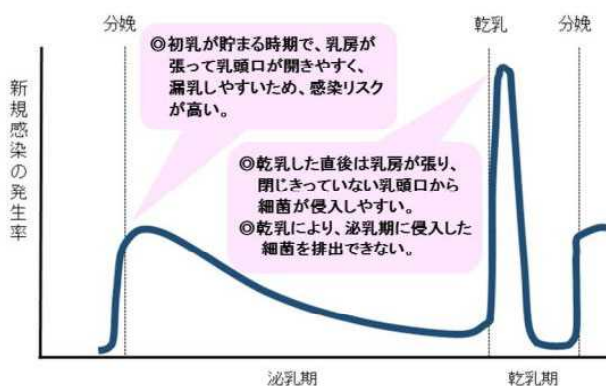


図1 泌乳期と乾乳期における新規感染の発生率の関係

(Natzke,1981)

### (1)飼養環境を清潔に！



写真1、2 きれいに管理された乾乳牛 写真3 育成牛を清潔で乾燥した環境で飼うことは乳房炎のリスクを減らします

写真4 乾乳牛や育成牛が置かれがちな環境（乳房・乳頭が汚れるので感染のリスクは常に付きまといます）

図2 乾乳牛の飼養環境あれこれ

### (2)乳頭テーピングで汚れを防ぐこともできます

乾乳するとき乳頭先端を「透湿防水性の医療用フィルムテープ」を巻いて、乳頭口を覆ってしまいます。

乾乳軟膏を注入して乾乳したら、ディッピング剤やアルコールで乳頭表面を清潔にし、テープで乳頭を覆います。

ただし、牛体を清潔に保てる環境では乳房炎減少の効果はありません（根釧農業試験場調査）。

テーピングの手順は普及センターにお尋ねください。



写真1 清潔な場所で効果あり！